

# 紫 朋

SHIHOU

Vol. 48 平成 15 年 4 月

発行  
横浜市立金沢高等学校  
同窓会「紫朋会」

## 会長挨拶



第十二期卒  
(昭和三十九年卒)  
高 梨 修

紫朋会会員の皆様におかれましては、ますます「健勝で過ごしのこととお慶び申し上げます。また日ごろから当「紫朋会」に対して様々なご支援「鞭撻を頂き、厚くお礼申し上げます。さて平成十四年度の紫朋会は、年三回の常任幹事会をはじめ、金高祭への参加、ハイキングの会、舟釣りの会、リース教室など、予定の行事を滞りなく行う事ができました。詳しい活動報告は別ページに譲りますが、金沢高校の創立五十周年記念事業を終えた翌年でもあり、まずはわが紫朋会としては特別に大型の行事もなく、平穏な一年であったかと思われれます。

しかしながら、紫朋会を取り巻く諸状況は、徐々に厳しさを増しており、これからの紫朋会をどのように運営していくか、真剣な論議を要する状況となっております。

皆様ご承知のとおり、日本の社会全体が急速に大きく変わろうとしている中で、母校の金沢高校にも、学校五日制とそれに対応する「二期制」の導入や、横浜市の高等学校再編整備計画に伴う単位制高校化など、様々な変化の波が押し寄せてきています。少子高齢化による生徒数の減少が進めば、近い将来に他校との統合など問題が浮かんできてくる可能性もないとはいえないでしょう。これらの動きの中で金沢高校が今後どのように変わっていくのかは、わが紫朋会

のあり方に直接に関係してきます。

一方、金沢高校の歴史が長くなるにつれて、わが紫朋会の会員数も着々と増加し、いまや二万人に迫る勢いです。このこと自体は大いに喜ぶべき事柄ですが、同時にそれは最も基本的な事業である会報の印刷・郵送費の増大を意味します。現在のように活動資金を新規会員の入金と会員の寄付金に依存する形は、財政的には大変脆弱でそろそろ限界に近づいていると言わざるを得ません。

このような状況下で、紫朋会としては、会員人材、バンクなど相互の連携強化策や、交流場所の検討、在校生との関係の強化などを進めて行く事が期待されています。これらを推進していくためにも、財政と運営体制の再構築という抜本的な対策が急がれます。これらの問題について、会員の皆様にご検討いただき、「ご意見やご提案をお寄せ頂きたい」と思います。

最後になりましたが、紫朋会会員の皆様、在校生とご家族の皆様、教職員の方々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

## 学校長挨拶



学校長  
高橋 則雄

二十一世紀の高等学校

平成十四年四月に金沢高校に着任し、多くの方のご協力を得て、微力ながら厳しくも充

実した一年を過ごすことができました。前任校長の常木先生には、本校ご在任三年間で、金沢高校の進むべき方向を定めていただくことに多大のご努力をいただいたことをまず御礼申し上げます。

また、平成十三年度には、「金沢高校創立五十周年記念事業」が紫朋会ご協力のもと、大成功裡に終了し、次の五十年を目指す確固たる礎になったことについては、後任校長として、紫朋会の皆様に深く感謝するものであります。

さて、金沢高校を取り巻く環境は、昨今、著しく変化しつつあることを、まず皆様にご報告しなければなりません。

平成十四年度より、完全学校週五日制となり、本校ではそれに対応するため、二期制を採用致しました。学校行事を精選したり、授業を従来とは異なる形で設定したため、生徒には戸惑いがあったようですが、変化の荒波に耐え、この一年間で見事にそれを乗り越えてくれたようです。金高生は、同じく平成十四年度より本格的に始まった高大連携事業にも積極的に挑戦し、前期では、横浜市立大学の七講座に二十二名が参加し、後期には八講座に十八名が参加して、大学生と一緒に学んでおります。

そして、横浜市立の各高校では、二十一世紀の高等学校を創造するため、横浜市立高等学校再整備計画の一環として、戸塚高校、南高校が平成十四年度より単位制高校に移行し、平成十六年度より、金沢高校、桜丘高校、東高校が単位制高校へ移行すべく準備を進めております。単位制高校では、生徒自信の興味・関心・学習目的・進路希望に応じた科目を選び、自分の時間割を作って学ぶこととなります。生徒一人ひとりが、三年間を見通して立てた学習計画に基づいて、自分の夢の実現を図ることができるような学校を目指して、金沢高校は検討準備を進めております。

三月一日の第五十一回卒業式で三百十四名が卒業証書を授与され、金沢高校の卒業生総数は、一万八千四百九十一名となりました。

紫朋会の皆様には、金沢高校に対し、今後とも絶大なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 平成十五年度

#### 紫朋会総会のお知らせ

- ◆日時 平成十五年五月三十一日(土)
- ◆会場 横浜市立金沢高校

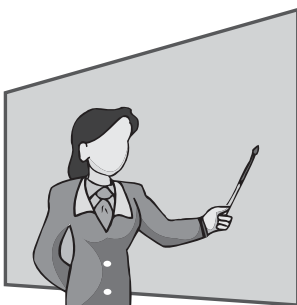
- ◆第一部 午後一時から  
講演会 視聴覚教室(階段教室)  
演題 「よく分かるバイオの話」  
講師 吉澤 緑氏(十七期卒)
- ◆詳しくは四ページ参照

- ◆第二部 午後二時から

- 総会 視聴覚教室(階段教室)
- 議題 平成十四年度 事業報告  
平成十四年度 決算報告  
平成十五年 事業計画  
平成十五年 予算案
- 役員改選
- その他

- ◆第三部 午後三時から
- 懇親会 食堂
- 会費 二、〇〇〇円

(平成十五年三月卒業生は無料)



### 平成十四年度 事業活動報告

#### ■ 常任幹事会

常任幹事会は、紫朋会の総会で決定・承認された各行事の運営計画を検討・実施する機関で各期各クラスの卒業生の代表(常任幹事)で構成されています。現在、常任幹事会は毎年三回開かれており、平成十四年度は以下のとおり開催しましたので報告します。

#### 【第一回】

四月六日(土) 於・金高会議室

議題 ① 新幹事紹介

② 会報『紫朋』47号発行について

③ 50周年会計報告

④ 平成十三年度決算報告

⑤ 平成十四年度事業計画・予算案について

⑥ 十四年度総会について

⑦ 役員改選について

#### 【第二回】

九月七日(土) 於・金高会議室

議題 ① 会計中間報告

② 金高祭の企画について

③ 会報『紫朋』48号発行について

④ 今後の紫朋会の在り方について

⑤ 常任幹事の再構成について

#### 【第三回】

一月二十三日(土) 於・金高会議室

議題 ① 会報『紫朋』48号発行について

② 平成十五年事業計画について

③ 今後の紫朋会の在り方について

※幹事会終了後、新年会を実施

常任幹事会は紫朋会の運営には不可欠の重要な活動です。今年度の幹事会開催予定は別掲のとおりですが、今年度の紫朋会でも

様々な活動が予定されていますので、クラス代表であるか否かにかかわらず、会員の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

#### ■ 平成十四年度 総会

平成十四年五月二十六日(日)に定例総会を行いました。

平成十三年度の事業活動報告と決算報告ならびに会計監査報告をし、この席上において承認をいただきました。

続いて平成十四年度の事業計画と予算案の説明と審議が行われました。今年度の役員改選も続いて承認されました。

総会での講演は五十周年記念事業において「紫朋奨励賞」を受賞された梅原マチ子さんの障害を持っていらっしゃる子供たちが心安らかに成長し、その地域で差別なく生きていくために長い年月活動し築かれた成果、今後も活動を続けられる決意や優しい気持ちあふれるお話を頂きました。

この後は、食堂での懇親会を行い、懐かしい先生方を囲んで和やかなひと時を持つことができました。次回総会も沢山の参加を望んでいます。

#### ■ ハイキングの会

第十五回目は東丹沢の仏果山に登った。

6月8日(土)総勢21名、本厚木からバスで50分、燃系組合前で下車。この時期には珍しい位の好天に心も軽く半原の集落を出発。集落を過ぎた登山口から山頂までほとんど急登の連続、標高747mとはいえ大変でした。

山頂で昼食、展望台から眼下の宮が瀬湖や横浜方面の遠景までの眺望を楽しんだ。下山は露天風呂のあるキャンプ場リッチランドへ下り、風呂でさっぱりして、宮が瀬からのバスで厚木に戻った。

第十六回は11月17日(日)箱根火山の外輪山山神が岳を目指した。大雄山駅(関本)からバスで道了尊へ、22名が参加、最乗寺境内の見事な紅葉に感激し記念撮影。天狗の大下駄を見てハイキングコースに入る。頂上(1169m)まで2時間半、だから長い登りで飽きるころ到着。あいにく曇り空で富士山は見えず残念でした。昼食と宮城野の温泉をゆっくりしようと思星が岳はカットした。

勳太郎の湯は良かったがその後の強羅駅までの登り階段には参りました。登山電車で箱根湯本、小田原に出て解散しました。

#### ■ 紫朋会「舟釣りの会」

昨年に続き今年も「舟釣りの会」を十月十九日(土)に実施しました。

秋晴れの好天にも恵まれた当日、金沢八景駅からもほど近い金沢港の弁天屋に集まった紫朋会員は総勢6名。朝7時半に港を出た船は一路猿島沖へ。微風の穏やかな海で談笑を交わしつつ釣り糸を垂れ、一日のんびりと釣りを楽しみました。型ぞろいのシロギスが平均30匹と釣果もなかなかのうちに無事夕刻に帰港し、次回も是非と語りながら散会しました。

#### ■ 金高祭

平成十四年度の金高祭は、十月五日(土)・六日(日)に行われました。

恒例の各期卒業アルバム展示・来訪者へのクッキーとお茶のサービスに加え、輪投げと乾電池のつかみ取り大会、五十周年記念事業の際に行われた写真展示の一部を展示しました。

#### ■ リース教室

十二月七日(土)PTAも参加し、八名が受講しました。

今年はいりピーターからの希望もあり、正月向けのリースを作成しました。羽子板をベースにしたもので、「こんなリースもあるのか」とみなさん熱心に手を動かしていました。出来栄もよく、自宅に持ち帰りひと足先に正月気分には浸ったのは私だけではないと思います。



# 学校便り

氏名 (教科) 前任校

和田 直己 (地歴公民) 東高校から  
 屋宮 玖二久 (数学) 横浜商業高校から  
 新井 宏己 (保健体育) 港商業高校から  
 岩田 正満 (音楽) 南高校から  
 酒井 篤 (情報) 鶴見工業高校から  
 鈴木 陽吾 (保健体育) 新規採用

平成十五年度

1. 着任

大森 俊尚 副校長 教育委員会  
 宮崎 三美 事務局長 情報教育課から  
 安達 清和 国語科 指導第一課から  
 野口 真昭 国語科 横浜商業高校から  
 早乙女 大道 理科 鶴見工業高校から  
 牧野 幸男 保健体育科 岩崎中学校から  
 小林 真澄 英語科 港高校から  
 山崎 旬一 情報科 東高校から  
 窪津 尚亮 数学科 横浜商業高校から  
 \* 早乙女、牧野両先生は金高卒  
 新規採用

2. 離任

柳田 緑雄 副校長 横浜商業高校  
 久保 保忠 国語科 副校長へ  
 武井 英樹 理科 横浜商業高校へ  
 屋宮 玖仁久 数学科 鶴見工業高校へ  
 岡崎 美喜子 家庭科 横浜総合高校へ  
 荻田 尚 保険体育科 戸塚高校へ  
 小荒 さち子 国語科 横浜商業高校へ  
 退職

## ○十四年度の主な出来事

第二情報室の設置

北校舎三階 (社会科教室の上) 職員休養室の設置  
中庭 (南校舎技術員室側)

### 《運動部》

◎野球部

### 現役生の活躍

◆全国選手権神奈川大会 2 回戦進出

◆秋季地区予選 3 勝

◎バスケットボール部

◆市立総体 3 位

◆関東大会県予選ベスト 8

◆市立総体 3 位

◎バレエ部

◆市立総体 3 回戦進出

◆秋季大会ブロック優勝

◆市立総体 3 位

◎陸上競技部

◆市立総体男子総合 5 位・女子総合 2 位

◎バトミントン部

◆高校総体女子団体ベスト 16

◎剣道部

◆市立総体男子団体 3 位・女子 2 位

◎バントワリング部

◆神奈川県マーチングバンド・

バントワリングフェスティバル 2 位

◆関東大会銀賞

◎テニス部

◆横浜市リーグ戦 1 部優勝

◆女子

◆女子

◆女子

◆女子

◆女子

◆女子

◆市立総体 A ブロック優勝

◎サッカー部

◆市立総体予選 3 回戦進出

◆夏季大会 5 位

◎水泳部

◆市立総体男子総合 3 位・女子 3 位

### 《文化部》

◎吹奏楽部

◆吹奏楽コンクール地区予選銀賞

◎天文学部

◆「神奈川の自然をたずねて」(築地書館) 出版

## ○バトン部での 2 年間

澤 裕美

私達はこの二年間、仲良く元氣よく頑張ってきました。大好きな仲間と歩んできたヒストリーを少しですが紹介します。

入部して二・三ヵ月たった頃、当時一年生だった私たちに異例のできごとが起こりました。先輩たちの県大会の日が修学旅行に重なってしまい、先輩たちが出場できなくなりました。県大会は、全国大会まで続く大きなもので、私達のメインの大会です。そこで私達は、先輩たちの代わりに県大会に出場し、関東大会への切符を手に入れることを託されました。夏休みから十月下旬の大会まで、数えるほどの休みの練習をこなし、先輩に関東大会に出てもらうんだという気持ちを胸に頑張りました。そしてついにそれは叶ったのです。先輩を関東大会へ出させてあげられると判ったあのとときの感動は今でも忘れることができません。

そんな完全燃焼をしてしまった私達は次にやってくる基礎の時期を迎え、春にはチアの大会に出場し、新入生歓迎会で踊り、港祭りに出ました。そうして今年も県大会を迎えました。今年は「もののけ姫」をテーマにし、コーチに振りを作っていたいただきました。技が多く取り入れられたので、アザが日に日に増えながらも、充実感のある楽しい毎日でした。そして結果は「県二位!」一年生の時には「すごいなあ」と圧倒されていたとても上手な学校とも同等に競り合えるようになって、自信のついたし、とても嬉しかったです。今年も県大会と関東大会の間に修学旅行がありました。関東大会一週間前だったため、修学旅行中も朝練を計画し、沖縄で毎朝五時に起床しました。また、キャンプファイヤーで有志として「モーニング娘」の「ザ☆ピース」を踊ることも計画。練習の合間を縫って振り付けをしました。一段と結束を強めると共に修学旅行の楽しい思い出の一つとして心に残ることとなりました。そして関東大会当日。前橋で今までの練習の成果を出し、すがすがしい気分演技を終えることができました。結果は銀賞。飛び上がるように喜びました。

こんな出来事を積み重ねてきた私達は、こんなに大好きになることのできる部活に入ることができて幸せだと思っています。ここまで育ててくださったコーチ、いつも見守っていてくれる両親・顧問の先生。ありがとうございます。バトン部大好きです!

# 会員便り

## □平成十五年総会講演者



第十七期卒  
(昭和44年卒)  
吉澤 緑  
バイオテクノロジー  
研究者、  
宇都宮大学教授

この度、母校の創立五〇周年にあたり、紫朋奨励賞を授与下さるとのお知らせを受け、まるで親から「これまで良く頑張ったね。」と褒められるようで本当に嬉しい限りです。関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げます。受賞に際して、これまでのことを記すように依頼され、普段は後ろを振り返ることをほとんどせず（というよりその暇がない？）前のみを見て過ごしている私ですが、これを機にこれまでを振り返ってみようかと思えます。

私、吉澤（旧姓、島根）緑は、昭和四十一年に金沢高校に入学、一年生の時は、野田先生のクラスで、二年からは理科系進学クラスで秋沢先生のクラスでした。当時、理進の女子は少なく、クラスで小さくなっていくように記憶しています。四十四年に卒業し、四十六年に宇都宮大学農学部畜産学科へ入学しました。当時、畜産学を勉強

する女子は稀であり、私はクラス三十名のうちたった一名の女子で、四年生に一名女子の先輩がいるだけでした。農学部全体でも女子が少なかったのですが、高校時代に理進で男子ばかりの中にいたせいでしょいか、それほど苦になりませんでした。五十年に宇都宮大学を卒業、そのまま同大学院農学研究科畜産学専攻へと進学しました。五十二年に宇都宮大学大学院を修了、当時は女性の畜産専門職の採用はないとのこと、教員採用試験に合格していたこともあり、中学、高校の理科教員になろうと思っていたのですが、運良く研究室に助手として残していただきました。五十四年十二月に同じ農学部の林学科の助手であった吉澤伸夫と結婚し、その後、私の両親が横浜から引越してきてくれるなどの協力により、男二人、女一人の子供をもうけました。母たちの協力がなかったら、現在の私はなかったでしょうし、子供も二人だったでしょう。夫は同じ研究者仲間のため、仕事については理解があります。

末っ子の娘が幼稚園に通えるようになるのを待って、平成元年の五月から二年の二月まで、東北大学農学部へ内地留学し、それまでの成果を学位論文として纏め、平成二年一月に東北大学より農学博士の学位をいただきました。この期間、平日は東北大学の研究室で実験、論文執筆、週末は宇都宮へ帰って家事という生活で、自分の時間が平素に比べ十分取れたため、学位論文のみならず英語の投稿論文を次々と仕上げることができました。

しかし、睡眠時間を削って早朝や夜間、深夜に実験をするための慢性的な睡眠不足と忙しければ朝食、昼食も抜かすような無

茶苦茶な生活をしていたせいでしょいか、平成四年に人間ドックで早期胃癌が見つかり、胃の亜全摘手術を受けました。特に、この前年は、主任教授が退官され、私が助教授に昇進して間もなく、教室のもう一方の教授が胃癌の手術後に急逝され、私は教室を一人で運営しなければならず、大学院生五人、卒論生十人の面倒を一人で見るという大変な年でした。講義や学生実験の授業、修論や卒論の実験や論文指導など、ぞっとするくらい多忙な時期でしたが、これを何とか乗り越えられたのは私にとって大きな自信となり、あの時のことを思えば何でもできると思うようになりました。しかし、身体は大きなダメージを受けていたのです。私の人生観もこれを転機として変わり、少しは人生をエンジョイしようと考ええるようになりました。再発の恐怖と後遺症に悩まされましたが、子供のためにも生きたいと願ひ、睡眠時間を増やし、食事もちんちんと摂るといように生活も改め、現在に至っております。

平成九年には、宇都宮大学農学部で初めての女性教授に昇任させていただきました（助教の時も初めてだったのですが）、翌年からは、東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程の教授を併任しております。私の専門としております動物繁殖学の分野では国立大はもとより、私立大も含めて初めての女性教授ではないかと研究者仲間からは言われ、女性の声を代弁せよと様々な専門学会で理事や評議委員、編集委員などに推挙いただき、責務を果たさせていただきました。平成十一年九月には、これまでの地道な研究成果を認めていただき、日本繁殖生物学会より学会賞をいただきました。

受賞対象となりました研究は「哺乳動物の操作胚における細胞遺伝学的研究」と題するもので、近年盛んとなっております体外受精や顕微授精、トランスジェニックやクローン作出などのバイオテクノロジーにより作り出される哺乳動物の初期胚の正常性について細胞遺伝学的な面から研究したもので、マウス、ウシ、ヒトなどの実験動物から家畜、基礎からヒトの不妊症治療に至る幅広い動物、領域について、これらの技術の安全性を検討したものです。世界初の体細胞クローンウシ作出で有名な近畿大学の角田教授をはじめ、多くの最先端技術の学者、研究者との共同研究も数多く、言うなればこれらの技術の基礎を支える地味な仕事です。

私は、多くの方々に支えられ、助けられて今日に至っております。数多くの有能な先輩の女性研究者がポストにつけず研究の場も与えられずに学界を去っていったことを伝え聞くにつけ、私がかこに居て良いのかと自問しながら必死で頑張つてまいりました。現在、私が属しております生物生産科学科では、女子学生が六割超を占めるまでになりました。しかし、経済情勢の悪化を反映して、女子学生の就職状況は芳しくありません。真の男女共同参画の社会が形成され、職場で男女の比が等しくなるまでは、現在職場にいる女性一人一人が頑張るしかなく、また、女性が仕事を続けていけるような環境整備をすることは、男性にとっても生きやすい社会となるものと信じております。金沢高校の後輩の皆さんが、そのような理想的な社会を形成される大きな力となられますことを期待しております。

□平成十四年度寄付者一覧

紫朋会の運営は、在校生からの入会金と会員の皆様からの寄付によって成り立っています。

今年度も、多くの皆様からのご寄付がありました。厚く御礼申し上げます。また、引き続きより多くの皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

今年度寄付をいただいた方々は、次の通りです。(敬称略)

1期 大和田 法子

2期 浅沼 喜美子、古澤 俊雄、平島 喜導、今関 孝子、山田 義雄、田中 和男、刈込 賢治、徳永 孝子、白石 能望、柳澤 宏、石橋 幸子、山梨 淑子、大沢 冷子、森 志津子、石井 フジ子、入江 さち子

3期 高橋 佐登子、花園 ハツ子、鹿野 融雅、蒲谷 博幸、三縄 憲一、境 勇、飯田 澄子、石橋 貴美子、松本 良子、久木田 寛忠、金井 清子、前村 望行、舟茂知子、百溪 浩、片岡 悦子、武田 恵津子、丹内 明男

4期 黒川 勝年、堀江 雄次、林 美智子、大方 満里子、黒部 淑子、木村 寿子、森 正義、浅島 稔、内田 哲也、藤井 美紗子、鈴木 幸子、小川 揚之輔、高原 幸比虎、末宗 千枝子、倉田 厚生、鈴木美美子、荒木 泰三

5期 田野井 俊一、菅野 由利子、平井 英雄、鹿野 融照、石澤 晴康、二宮 やす子、足立 堯、田中 耕多、島田 昭子、相川 勲、活田 征一、高橋 禮子、中田 貴子、左右田 宗夫、橋本 博幸、齋藤 正通、鶴野 悟

6期 渡部 晴美、遠井 義興、武井 公子、堀田 幸子、横須賀 和彦、鈴木登志江、本

間 みづほ、安田 美奈子、赤岡 充雄、伊神 美智子、田倉 雄一郎、齊木 紀巳代、奥田 美佐子、富樫 美代子

7期 小沼 廣喜、上野 昭紀、大畑 敏久、大津 弘子、服部 君江、岡田 幸子、島尾 久箕子、高木 順子、三橋 留美子、永柴 英子、藤田 騰、平井 郁子、豊田 茂敬、野村 恭子、大浜 光晏、米田 明美、中山 綾子、木村 裕一

8期 奈良 敏子、グリフィス 笙子、市原 省吾、石村 和子、塚田 エイ子、秀嶋 良夫、片山 克彦、澁谷 徹、鈴木 美奈子、小関 道夫、田村 洋一、井上 康子、平柳 亮作、谷津倉 孝一、大原 武成、小松 栄一、堀川 昌美、小川 恵美子

9期 田野井 宣子、岡本 幸子、高木 洋子、石井 美津子、中山 百代、亀村 蓉子、武村 陽子、上野 絃、阿部 昭彦、和田 政子、永島 正勝

10期 山本 光世、朝木 富久子、荻田 孝江、畑口 よう子、上田 廣一

11期 岡田 紀子、小幡 あけみ、安島 幸子、佐藤 義明、蒲谷 勲

12期 明石 稔、石田 京子、佐田 和江、矢田 融海、亘理 直子、川添 一弘

13期 山本 幸子、新沼 毅、梅原マチ子、名波 ちよ子、鈴木 孜、細川 洋一、柳本 茂、遠藤 和孝、矢島 洋子、伊藤 博

高野 研市、宮木 恒夫、村上 賢、小林 博、相原 和夫、関 文雄

17期 大沼 美和子、田代 久子、前田 陽子、伊澤 隆雄、萩原 孝子、瀬戸口 理恵子、山田 徳治、梶田 陽子、中村 由明、吉澤 緑

18期 川又 淑乃、山村 幸雄、崎島 陽子、福士 ひろ子、齊田 恵美子、木村 雅和、山口 英雄

19期 山本 見代子、田中 千恵子、蒲谷 栄子、大島 信夫、片桐泰典、戸高 真澄

20期 中沢 郁子、大宅 君江、大宅 道子、長谷川 実

22期 瀬戸 由子、林 義弘、幾田 雅明

23期 若林 裕子、中島 早苗、長谷川 隆

24期 三橋 涉、戸塚 節子、黒川 肇、太田 さとみ、御園 昌人、三浦 澄明

25期 山内 江津子、荒川 三枝子、坂下 ふみ、成田 洋子

26期 西永 秀子、山下 仁

27期 小野 不二子、北原 京美、瀬戸 和弘、溪 雅弘、浅川 均、松村 豊子、鈴木 聡子

28期 中島 靖雄、清水 純子、藤井 純子

29期 小坂 智子、内堀 雄一郎、小久保 和子、杉野 健二、竹田 浩一

30期 阿部 昭子、阿部 敬子、杉本 泰彦、鈴木 隆史、山崎 勝代、近藤 恵、田村 敬子

31期 田辺 正幸、相原 秀彦、小林 宏州、多田 祥子、藤原 佐恵子、北村 裕

32期 石倉 恵介、久保 信本、山内 恒明、大河原 聖巳、山崎 尚子、岡部 千晶、杉本 公重、張 英

33期 南 寛美、川口 千絵、小林 剛、牛澤多恵子、杉本 勇治、柿沼 裕之、森田 徹

□お詫び

昨年度「紫朋」47号に別紙としてお配りした「五十周年記念事業寄付者一覧」の中に、当方の手違いにより次の皆様のお名前(敬称略)が記載されていませんでした。心よりお詫び申し上げます。

6期 久保田啓子 須釜幸子 伊神美智子 笹川博行 田宮健三 平島喜稔

12期 竹原毅

14期 加藤悌三

平成14年度寄付期別集計

期	人数	金額	期	人数	金額	期	人数	金額	期	人数	金額
1	1	¥5,000	14	7	¥17,000	27	7	¥19,000	40	4	¥14,000
2	16	¥72,000	15	10	¥26,000	28	3	¥6,000	41	3	¥6,000
3	17	¥77,000	16	12	¥47,000	29	5	¥12,000	42	2	¥7,000
4	17	¥39,000	17	10	¥31,000	30	7	¥28,000	43	1	¥2,000
5	17	¥71,000	18	7	¥25,000	31	6	¥16,000	44	0	¥0
6	14	¥42,000	19	6	¥12,000	32	8	¥23,000	45	1	¥2,000
7	18	¥63,000	20	4	¥20,000	33	7	¥22,000	46	2	¥4,000
8	18	¥82,000	21	0	¥0	34	4	¥8,000	47	2	¥4,000
9	11	¥30,000	22	3	¥13,000	35	1	¥3,000	48	3	¥6,000
10	5	¥10,000	23	3	¥6,000	36	2	¥4,000	49	4	¥13,000
11	5	¥12,000	24	6	¥22,000	37	7	¥22,000	50	5	¥10,000
12	6	¥22,000	25	4	¥8,000	38	1	¥2,000	旧職員	1	¥10,000
13	10	¥20,000	26	2	¥4,000	39	2	¥17,000			

同期会クラス会便り

□十四期六組クラス会



私たち14期生3年6組武田孝担任のクラス会が、11月16日横浜東口の「いらか」という関西料理のお店であり、男性6名女性7名が参加しました。3年前に中華街で先生もご出席されて開かれましたが、そのとき来られなかったけれど今回は参加されたメンバーもいて、やはり懐かしさはひとしおでした。55歳の節目というふれこみで行ったので、食事はヘルシーな日本食にしました。普段では行かないような高級感のある店で、会費もちょっとお高いかなと心配でしたが、10名以上集まってくれてホッとしました。二次会には男女4人ずつの8人が残り、西口のカラオケで終電近くまで歌いまくりました。

今回の最遠距離参加者は、前回も駆けつけてくれたメンバーで、クラス会を楽しみにしているそうです。遠くにいる人たちはこの横浜にくる口実として、また若かった頃をふりかえるきっかけとして、近場のメンバーと旧交を深めて、元気に帰っていくのです。

□十五期三組クラス会

長い長い30数年間だったのか？それとも・・・。

去る10月26日（土）、15期3年3組のクラス会を35年ぶりに横浜西口岡田屋モアーズで開きました。

かつての面影を残す人、全くわからなくなってしまった人、それぞれですが、それぞれのこの35年間で1人ずつ語っていった重みはひしひしと感じました。

北島先生も大変お元気に参加していただきました。次の日、27日には72歳の誕生日のことで花束も贈りました。皆さん懐かしく過ぎされた数時間だったようです。2次会では皆さんお得意のものを披露していただきました。

参加者は男10人、女8人と先生でした。

相川先生にもいろいろとご協力いただきありがとうございました。おかげさまで皆さんにも大変喜んでいただきました。

次回はいつになるか解かりませんが皆さん



元気で再開を誓い合いました。

幹事 島田 克夫

□十六期四組クラス会



平成14年5月25日、16期4組クラス会をコナチネンタルホテル横浜にて開催。

今回は先生の60歳の節目を記念して集まりました。6年ぶり、同期会から3年ぶりの再会。卒業以来の友達もいて楽しいひとときを過ごし次会二三年後の再会を約束してお開きとなりました。

幹事 石井



### 平成十五年度事業計画

- ①総会
  - ②「紫朋」四十八号発行
  - ③常任幹事会
  - ④新幹事歓迎会
  - ⑤ハイキングの会
  - ⑥舟釣りの会
  - ⑦金高祭への参加
  - ⑧リース教室
  - ⑨ホームページの運営
  - ⑩同期会・クラス会への補助
  - ⑪在校生への支援
- \*各行事の案内、参加申込みは、各担当者まで。ご一報ください。

#### □常任幹事会

- 第一回 四月五日(土)
- 第二回 九月六日(土)
- 第三回 一月二十四日(土)
- 各回 14:00~16:00

#### □新幹事歓迎会

四月十五日(火) 18:30~

#### □総会

五月三十一日(土) ※一ページ案内参照

#### □ハイキングの会

- 第十七回 六月七日(土)
- 高松山

西丹沢の南に位置する標高813mのなだらかな山で、第十一回に歩いた大野山とともに神奈川県西部では訪れるハイカーが多い所である。バス停高松山入口から歩行時間4時間。集合は大船駅7時45分(JR利用)

横浜駅7時30分(相鉄・小田急利用)  
新松田駅前9時

#### ▼第十八回 十一月十五日(土)

陣馬山  
相模湖の北にあり、ハイカーに人気の奥高尾の山々のひとつ。813mの山頂には大きな白馬の像があり、「かながわの景勝50選」に選ばれた眺望は富士山はじめ南アルプス、丹沢、秩父、奥多摩、相模湖と三六〇度である。帰途「陣馬の湯」もある。歩行時間4時間。集合は東神奈川駅7時30分  
中央線藤野駅9時30分

参加希望の方は事前にお申し込みください。詳しい計画書をお送りします。葉書またはFAXに ①卒業期組②氏名③〒住所④電話⑤参加する回(17回、18回)⑥同行者がいれば氏名、連絡先を書いて左記宛てに願います。

5月総会の受付でも申し込みめます。

(申込先) 相川 勲

〒236-0016  
横浜市金沢区谷津町278  
FAX 045(781)3703

#### □金高祭

十月四日(土)・五日(日)

#### □舟釣りの会

十月十八日(土) 7:30~15:30

今年度の舟釣りの会は、昨年同様に金高地元の金沢八景の船宿で、できれば金高教職員や現役生の参加も得て、手軽な釣りを楽しみたいと思います。初心者・女性も大歓迎です。ふるってご

参加下さい。

高梨 修(十二期)

電話 〇四五(七八一)一九二四

※天候条件等により延期となる場合もありますので事前にお問合せ下さい。

#### □リース教室

十二月六日(土) 10:00~12:00

御園 昌人(二十四期)

電話(七七八)七一五五



### 新幹事の紹介

今年度、五十一期生として新たに紫朋会の幹事となられた方々をご紹介します。今後の紫朋会を担う若き力として、先輩幹事一同応援したいと存じます。

1組	大森 里美	木村 由美子
2組	神崎 政雄	小澤 哲郎
3組	関澤 亮	河津 麻美
4組	四家 奈都樹	嶋津 結希野
5組	安崎 充	谷垣 みのり
6組	伊藤 雅泰	朽木 美菜
7組	川上 諒	小泉 聡美
8組	加藤 康之	作山 優介

(敬称略)

### 今後の紫朋会の在り方

五十周年を過ぎ、次の百周年を盛大に迎えるために、現在、紫朋会では「今後の紫朋会の在り方」を真剣に議論しています。

ご存知のとおり、紫朋会は在校生からの入会金と会員の皆様からの寄付によって、その運営を賄っております。しかし、増加する会員数に対し在校生の数は減少の一途をたどっています。このままでは、皆様に「紫朋」を発行する事ができないばかりか、二年后には会の存続が不可能となってしまいます。

そこで、常任幹事会において、「座して死を待つ“より”改革“をとのもとに、在校生からの入会金と会員からの寄付で賄われている今の体制を抜本から見直していくこととなりました。

その第一歩として、常任幹事会とは別に、今後の紫朋会の在り方を専門に検討する「紫朋会構造改革委員会」(仮称)を設置し、活動をすることとなりました。

メンバーは、会長、副会長、歴代会長、事務局長、有志常任幹事としますが、会員の皆様からのご意見、アイデアなど幅広く取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

「平成14年度の役員・スタッフ」

会長	高梨 修 (十二期)
副会長	大津 弘子 (七期)
	松原 尊臣 (十六期)
	御園 昌人 (二十四期)
会計監査	佐藤 邦彦 (十四期)
	中塚 路子 (十七期)
	山下 由紀子 (四十三期)
	佐藤 敏幸 (三十三期)
事務局長	村杉 亜以子 (四十二期)
事業部長	蒲谷 香津子 (十六期)
会計	佐藤 伴子 (十六期)

### 紫朋会 平成 14 年度決算報告

自 平成 14 年 4 月 1 日 至 平成 15 年 3 月 31 日

収入の部		
科 目	予 算	決 算
A 前年度繰越金	366,621	366,621
B 50 周年特別会計繰入	311,038	4,311,038
C 入会金	2,250,000	2,361,250
D 総会会費	100,000	38,000
E 銀行預金利子等	1,000	43
F 寄付金	1,000,000	1,039,000
G 雑収入・会費等	80,000	124,500
収 入 合 計	4,108,659	8,240,452

支出の部		
科 目	予 算	決 算
A 総会費	100,000	108,827
B 常任幹事会費	100,000	121,456
C 紫朋発行費	1,100,000	1,264,200
D 同窓会・OB 会補助費	200,000	45,000
E 金高祭費	100,000	94,298
F 事務局活動費	500,000	284,990
G 郵送費	1,250,000	1,240,223
H 在校生支援金	700,000	54,673
I 予備費	58,659	0
支 出 合 計	4,108,659	3,213,667

紫朋会事業基金	4,000,000	0
---------	-----------	---

繰越残高	5,026,785	
------	-----------	--

繰越明細	
横浜銀行 学校	664,048
横浜銀行 紫朋会	4,185,821
郵便局	7,796
現金	169,120
合計	5,026,785

### 紫朋会 平成 15 年度予算案

自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日

収入の部		
科 目	予 算	前年度予算
A 前年度繰越金	5,026,785	366,621
B 50 周年特別会計繰入	0	311,038
C 入会金	2,300,000	2,250,000
D 総会会費	50,000	100,000
E 銀行預金利子等	1,000	1,000
F 寄付金	1,000,000	1,000,000
G 雑収入・会費等	80,000	80,000
収 入 合 計	8,457,785	4,108,659

支出の部		
科 目	予 算	前年度予算
A 総会費	100,000	100,000
B 常任幹事会費	150,000	100,000
C 紫朋発行費	1,400,000	1,100,000
D 同窓会・OB 会補助費	100,000	200,000
E 金高祭費	100,000	100,000
F 事務局活動費	400,000	500,000
G 郵送費	1,250,000	1,250,000
H 在校生支援金	700,000	700,000
I 予備費	40,452	58,659
支 出 合 計	4,240,452	4,108,659

紫朋会事業基金	0	4,000,000
---------	---	-----------

次年度繰越金	4,217,333	0
--------	-----------	---

## 事務局からのお知らせ

卒業生のお店、会社、自営業の方を  
紹介して下さい

創立五〇周年を終え、事務局では、「卒業生のお店大発掘」を引き続きしております。従来、飲食店を中心にしておりましたが、自営業者・経営者として各分野で活躍されている方全てを対象といたします。紹介していただいた情報は、「ご本人の了承を得た後、「自営業者一覧」として、ホームページに掲載させていただきます。

自薦他薦を問いません。同封のハガキにご記入いただき、お送りください。よろしく願っています。

#### ◎紫朋会ホームページリニューアル

五〇周年記念事業の一環として行いましたホームページをリニューアルしました。今後、随時メンテナンスしてまいりますので、期待して下さいます。

なお、メンテナンスに協力していただける方を募集しております。メールをください！

#### ◎学校作成「記念誌」希望の方

五〇周年事業寄付者の方で三口以上寄付をされた方にはお送りしましたが、学校側が作成した「五〇周年記念誌」に若干数残りがあります。「ご希望の方には一部三千円（送料込）でお分けします。返信用ハガキにてご連絡下さい。

